

スクールマネジメント実践報告書

43 明治小学校

地域とともにある魅力ある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	ふるさと頸城を愛し、思いやりにあふれ、 未来をたくましく切り拓く子ども
本校の目指す子ども像	いきいきのびる明治っ子



実現に向けた重点的な取組内容	小中一貫教育の具体的な取組	
	本校の取組	中学校区の取組
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、教師の「〇〇したい」であふれる授業づくり 「〇〇したい」を実現するための教育環境づくり（地域のひと、もの、こと、学校内の学習に関する意図的な配慮） 	<ul style="list-style-type: none"> 3部会（学力向上部、豊かな心部、健康づくり部）を柱とした小中学校連絡会（小中一貫教育「頸城プロジェクト」）による実践
	成果○と課題■	成果○と課題■
	<ul style="list-style-type: none"> ○公開授業の協議会を子どもの姿で語り合うようになった。 ○夢・志チャレンジスクール事業を活用し、学び場を校外（地域）に広げたことで、子どもの地域に対する愛着が高まった。 ■体験活動が年々洗練されたものになっている。一方で、同じような活動が続く、新鮮味に欠ける側面もあるので、個性的で創造的な活動を構想していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の研究授業の参観交流 ○区内教職員対象の合同同和教育現地学習会の実施 ■3部会の取組が形骸化しつつあるため、取組の見直しをしていく必要がある。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある魅力ある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
生活科では野菜づくりとハムスターの飼育、総合的な学習の時間では大蒲生田の里山（ホタルの飼育やそば打ち体験等）、生き方（夢）をテーマとし、地域の自然や人々の営みに触れる機会を繰り返し設けた。特に「体験から学ぶ」ことを大切にし、活動後の振り返りに重点を置いた。また、教科等との関連を意識する活動にすることで、体験を通じた実感を伴った知識を得ることができた。	生活科	「がっこうだいすき なかよしいっぱい」（1・2年）
	総合	「なないろレインボー！大蒲生田の里山に行く」（3・4年）
	総合	「夢に向かって～人・自分を見つめて～」（6年）
学校運営協議会の評価		
1・2年生は野菜づくりの楽しさを味わい、小さな命にも目を向けることができた。3・4年生は、地域の自然の豊かさや大切さを実感できた。6年生は、地域の人との出会いを通じ、夢をもつことの大切さ、自分らしく生きることの楽しさを感じていた。学習のねらいは十分達成している。今後も子どもたちの「〇〇したい」を大切にした活動を進めてほしい。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であったか。	
	○	当てはまる
		どちらかという当てはまる
		どちらかという当てはまらない
		当てはまらない

スクールマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	3人	保護者	2人	住 民	4人	その他	1人	合計	10人
学校運営協議会の回数 ※（ ）は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回 (0)	2学期	1回 (0)	3学期	1回 (0)	合計3回 (0)	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	1回 (0)	2学期	0回 (0)	3学期	0回 (0)	合計1回 (0)	
活動の内容					成果○と課題■				
<ul style="list-style-type: none"> 5月にカリキュラム検討会を実施し、委員より提供された情報を活かし、生活科や総合的な学習の時間等で、地域の教材・人材を活用した活動を工夫することができた。第2・3回の協議会では、取組の成果と課題を委員間で共有できた。 花壇実行委員会と連携し、名所花壇「にじいろガーデン」の整備と一人一鉢の活動を行った。 青少年育成協議会とも活動計画を共有し、明治地域の探検（ブラめいじ）や地域クリーン活動を行った。 					<ul style="list-style-type: none"> ○委員は、花壇整備活動や青少年育成協議会の活動において子どもとともに活動できた。協議会では、子どもの姿やカリキュラム検討の成果を確かめるための好機となっている。 ○1～3回の学校運営協議会の検討内容は、それぞれ意味があり、適正である。 ○花壇整備活動を授業日に行った。子どもとともに作業することで、やりがいを感じるとともに、花壇を一層大切に思うようになった。 ■活動への協力者が固定化している。活動における協力者の確保が課題である。 				

地域とともにある魅力ある学校づくりの総括及び教育委員会への要望・意見

学校運営協議会の提案や評価を教育活動に活かすことができ、活動の充実感と成果を一層感じている。学校運営協議会委員が、花壇実行委員会や青少年育成協議会、総合的な学習の時間における支援者など、複数の役割を兼ねていることが当校の強みである。よって、学習と生活、安全等の多角的な視点から連携が取りやすい。

今後は、会議や活動の在り方を工夫し、地域や保護者の参画・参加を促しながら、より教育効果の上がる支援や提案をいただけるよう学校運営協議会の運営を進めていく。

〈活動の様子〉



○カリキュラム検討会

5月の学校運営協議会では、低・中・高学年に分かれ、活動構想表を基に、1年間の学習活動を話し合った。多くの情報やアイデアが提供され、担任の「○○したい」がいっぱいになった。



○夢に向かって

6年生は様々な人の「生き方」に触れた。地域で活躍する先輩たちの生き方を知り、自分の夢と重ね合わせていた。また、実際に仕事を体験したことで、やりがいや大変さも感じる事ができた。



○にじいろガーデンでの活動 子ども（小学生）、保護者、地域（各委員含む）、保育園児での活動は明治小の宝となっている。

特に高学年は、準備等、活動のすべてにかかわることで、愛着をもつようになった。